

医学英語 I

科目責任者 飯塚 秀 樹

学年・学期 1 学年・1, 2 学期

I. 前 文

専門の異なる2名の教員が展開し、医療に関する英語プレゼンテーション力、読解力、及び語彙力を養い、医学英語の知識、運用力を総合的に高めていくことを目的とする。

II. 担当教員

飯塚 秀 樹

坂本 洋 子

III. 一般学習目標

医学に関するプレゼンテーション・読解・語彙力強化を通して、英語運用能力を向上させること。

IV. 学修の到達目標

- 1) テキストを講読し、語彙や構文に注意しながら英文の読み方を確認する。
- 2) 医学や医療に関する語彙を習得する。
- 3) テキストを題材にプレゼンテーションの方法を学ぶ。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業形式 (事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。))

2: ディスカッション 3: グループワーク 4: 実習 5: プレゼンテーション 6: その他)

Aクラス

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	13	火	1	The Consecutive Interpreting Approach について	飯塚 秀 樹	
2		20	火	1	Presentation 1	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
3		27	火	1	Presentation 2	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
4	5	11	火	1	Presentation 3	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
5		18	火	1	Presentation 4	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
6		25	火	1	Presentation 5	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
7	6	8	火	1	Presentation 6	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
8		15	火	1	Presentation 7	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
9		22	火	1	Presentation 8, まとめ	飯塚 秀 樹	1, 2, 5
10	8	24	火	1	Introduction	坂本 洋 子	
11		31	火	1	Unit 1 自己紹介と本人確認	坂本 洋 子	1, 2, 6(演習)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
12	9	7	火	1	Unit 2 胸痛1 安定狭心症	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
13		9	木	1	Unit 3 頭痛1 緊張性頭痛	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
14		14	火	1	Unit 4 過敏性腸症候群	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
15		28	火	1	Unit 5 鬱症状	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
16	10	5	火	1	Unit 6 下血	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
17		14	木	1	Unit 7 アレルギー	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
18		19	火	1	Unit 8 薬歴, まとめ	坂本洋子	1, 2, 6(演習)

Bクラス

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	13	火	1	Introduction	坂本洋子	
2		20	火	1	Unit 1 自己紹介と本人確認	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
3		27	火	1	Unit 2 胸痛1 安定狭心症	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
4	5	11	火	1	Unit 3 頭痛1 緊張性頭痛	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
5		18	火	1	Unit 4 腹痛1 過敏性腸症候群	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
6		25	火	1	Unit 5 鬱症状	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
7	6	8	火	1	Unit 6 下血	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
8		15	火	1	Unit 7 アレルギー	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
9		22	火	1	Unit 8 薬歴, まとめ	坂本洋子	1, 2, 6(演習)
10	8	24	火	1	The Consecutive Interpreting Approach について	飯塚秀樹	
11		31	火	1	Presentation 1	飯塚秀樹	1, 2, 5
12	9	7	火	1	Presentation 2	飯塚秀樹	1, 2, 5
13		9	木	1	Presentation 3	飯塚秀樹	1, 2, 5
14		14	火	1	Presentation 4	飯塚秀樹	1, 2, 5
15		28	火	1	Presentation 5	飯塚秀樹	1, 2, 5
16	10	5	火	1	Presentation 6	飯塚秀樹	1, 2, 5
17		14	木	1	Presentation 7	飯塚秀樹	1, 2, 5
18		19	火	1	Presentation 8, まとめ	飯塚秀樹	1, 2, 5

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績を評価する。（ ）内は評価の割合。

飯塚担当分・・・定期試験（30%）、プレゼンテーション（30%）、確認テスト（30%）、出席・態度（10%）

坂本担当分・・・定期試験（60%）、小テスト（15%）、オンライン学習状況（15%）、出席・態度（10%）

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書：ALC NetAcademy NEXT 医学・医療英語コース（坂本担当分）

VIII. 質問への対応方法

随時、受付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

結果を講評，解説します。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前：シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

事後：シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合，講義内容をまとめておくこと。（所要時間の目安30分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。